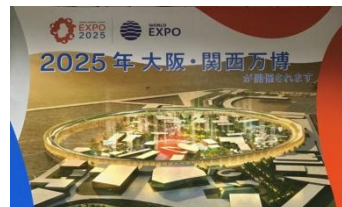


## 万博工事 止まらぬ不成立

写真は2025年大阪・関西万博のチラシ。裏面には8つのテーマ事業「いのちの輝きプロジェクト」がプロデューサーとともに紹介されている。朝日新聞15日社会面によると、テーマ館の建設工事が混迷している。写真下は新たに入札結果が不成立になった6件の万博工事。記事を抜粋して紹介する。



日本国際博覧会協会は14日、建設工事で入札の不成立が相次いでいることを受け、設計の変更や経費削減をしたうえで、年内にも順次、再入札を行う方針を明らかにした。ただ、物価高騰や円安等の影響で、予定価格が引き上げられる可能性が高く、会場建設費1850億円の上ぶれも懸念されている。

入札ではこれまでも、万博の大催事場▽小催事場▽迎賓館▽生物学者・福岡伸一氏のテーマ館の計4件が不成立になった。そのうち小催事場については、工事の内容を見直した

テーマ館名	プロデューサー	予定価格	入札結果
「いのちを守る」	映画監督 河瀬直美氏	10.7億円	入札なし
「いのちをつむぐ」	放送作家 小山薫堂氏	9.8億円	入札なし
「いのちを育む」	アニメーション監督 河森正治氏	10.5億円	予定価格内で入札なし
「いのちを磨く」	メディアアーティスト 落合陽一氏	6.4億円	予定価格内で入札なし
「いのちを響き合わせる」	慶応大教授 宮田裕章氏	14億円	予定価格内で入札なし
冷水プラントの設置や運営		66.1億円	予定価格内で入札なし

上で、予定価格を当初の27.5億円から1.5倍の42.1億円に引き上げて再入札を実施。結果、38.8億円で落札された。協会の石毛事務総長は14日の記者会見で、「応札者側の評価との乖離が生じた結果、不落などがおこった」とし、原因を分析した上で再入札の手続きを進める考えを示した。また、会見に同席した十倉会長(経団連会長)は、テーマ館について「万博のメインのアピールポイントですし、そう簡単に(内容を)変えます、安くしますとはいかない」と説明。協会がテーマ館の建設で出資する金額は変えず、企業からの協賛金を増やして対応する方針だ。

大阪日日新聞18日「潮騒」も、この問題に触れているので抜粋して紹介する。

協会の石毛事務総長によると「独創的なデザインを重視した建築となるため、発注側と落札側の希望が一致しなかった」ことが不成立の理由で、資材高騰が主因ではないという◆生物学者の福岡伸一さんや映画監督の河瀬直美さんら8人のプロデューサーによるテーマ館では、手続きに入った6館が不成立だった。協会はプロデューサーがデザインにこだわるというが、誰がどこまで建物の外観にこだわっているのかは不透明だ◆プロデューサーは各界のトップランナーであり、中身で勝負できる人たちだ。予算の範囲内で思いをプランにしてもらっても協会の仕事ではないか◆デザインで万博の会場建設費が膨張するのは初めてではない。20年12月には、全体の会場建設費が想定約1.5倍の1850億円に増えると発表があった。要因の一つがメインストリートの巨大屋根「リング」の設計変更費170億円だった◆会場建設費は国、大阪府・市、経済界が3分の1ずつ負担する仕組みで巨額の税金が入る。見た目より中身で勝負するとともに、軟弱地盤の会場であり、安全面を最重視してほしい。

(2022年12月19日)